

テニス・ミュージアム

URL: <http://www.jta-tennis.or.jp/museum/> Email: museum@jta-tennis.or.jp Phone: 03-3481-2321
(財)日本テニス協会テニスミュージアム委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館



目標人間の独り言

(財)日本テニス協会会長 盛田 正明

人にはそれぞれ色々な生き方が有るが、出来れば一人でも多くの人が後ろ向きや下向きではなく、上を向いて前を向いて歩けたら幸せではないかと思う。

では、どうすればそれが出来るか、これも人それぞれのやり方があり考え方があり、置かれた環境によっても違ってくると思う。

私自身に就いて言うと、いつも何かの目標に向かって懸命に歩いているのが自分のやり甲斐であり生き甲斐であるように思うのである。それは長年の会社勤めの間、否応無しに自分に目標が与えられて、その目標が難しければ難しい程それを達成した時の達成感に幸せを感じていたのが、どうやら私の習性となってしまったようだ。つまり目標人間になってしまったのだ。

会社を定年退職したら、もう誰からも目標は与えられなくなって一見気楽になった様に思えたが、その内に自分が一体今何に向かって生きているのか？と疑問を抱く様になったら途端に不安に襲われ

悩んでいる中に、そうだ、自分の好きな目標を作ってそれに向かって行けば良いのだと気がついたら寧ろ凄く楽しくなって来た。やっぱり私は目標人間なのである。

前置きがえらく長くなってしまったが、やっとテニス・ミュージアムの話に辿り着いた。

こう言う私がテニス・ミュージアムは何の為に作るのかを私流に考えると、テニス・ミュージアムへ来て先人が達成された偉業を見てそれに感銘したり讃えたりするだけが目的ではなく、先人の偉業から「よし、自分も負けないように頑張るぞ」と自分なりの目標を持って貰うきっかけを作るのが目的ではないかと思うのである。勿論、先人から較べたらずっとずっと小さな目標が良いのだ。でもテニス・ミュージアムに来てそう言う気持ちになり、テニスにチャレンジして下さるテニス愛好家が一人でも増えたら嬉しいし、それがテニス・ミュージアムの目的ではないかと目標人間は勝手に考えている。



日本テニスミュージアムの実現

国際テニス連盟名誉副会長・(財)日本テニス協会副会長 川延 榮一

創設90年を迎えた日本テニス協会、数々の活動の中で、静かにしかし着々と真剣に取り組まれていること、それは多年の念願であるテニスミュージアムの実現を目指して準備を担当しているミュージアム委員会(小田晶子委員長)の方々である。

世界のスポーツ先進国、なかでもテニスでは1881年全米選手権創設の舞台となった米国ニューポートで当時のままの建物にあるInternational Tennis Hall of Fame、1977年、大会100年を記念して開場されたWimbledon Lawn Tennis Museum、最初シドニーのNSWのテニススタジアムの一角に作られたAustralia Tennis Museum、そして、ローランギャロテニス会場内に建てられたFrance Tennis Museumは、いずれもテニスの檜舞台にあり大会期間中は無論のこと、普段でも世界のテニスファンが来場しテニスの歴史とともに名選手達の活躍を髣髴させる写真、記録、さらに数々の展示品でテニスに深い興味を覚え、同時に大会観戦を楽しみにしているのである。

70年代から、私は『米国テニスの殿堂』と呼ばれていたころからニューポートをこれまで10回以上訪問してきた。熊谷、清水、佐藤(次郎)選手の写真はすぐ目につく壁に掛けてあり、フィラデルフィアの

テニス美術展で私の写真(B.Borg選手)を買った方が殿堂に寄贈されて飾ってあった時もあった。昨年訪問した時、6年前に私が殿堂から受章したゴールデンアチーブメントトロフィが飾ってあるのを見て感無量であった。

またウィンブルドンは1977年の開館時、私が撮影したRod Laver選手の等身大の写真を装飾につかわれたのは貴重な思い出である。各国のミュージアムを比較すると、ニューポートの国際テニスの殿堂は米国だけでなく世界のテニスに関するコレクションと記録が充実し、また殿堂入りしたテニスリジェンドも紹介されている。ウィンブルドンのそれは最古の大会の歴史、活躍した選手達を中心にビジュアルなものが多く、パリではラケットの変遷など用具や歴史的な展示物が多いのが特徴である。

国際テニスの殿堂は愛好者からの寄付が運営の大きな財源であり、ウィンブルドンは恵まれた資力でコレクションを充実させているようだ。

テニス先進国の日本にも近い将来、日本が長年刻み込んできた栄光の歴史を一堂に集めたテニスミュージアムを実現させ、多くのテニスファンに楽しんでいただきたいものである。

お見舞い並びにお礼

テニスミュージアム委員会委員長 小田 晶子



東日本大震災により、多くの方の尊い命が失われた事に深い哀悼の意を捧げます。

募金にご賛同くださった方の中にも被災され、今も厳しい環境のもとでお過ごしの方々が居られます。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈り致します。

平成22年度ミュージアム基金活動に関しましては、多くの方々のご支援の御蔭で、当初予定を大きく上回り、中期5カ年計画目標額にあと200万円強で達する見込みとなりました。ご協力に感謝申し上げます。

今年度はJTA震災義援金募金も始まりました。この様な災害時で

ありますが、ミュージアム基金活動は地道に継続して参りますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

「JTA東日本大震災義援金」口座

■銀行名：三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)
■支店名：渋谷明治通支店(支店番号470)
■口座番号：普通預金3126076
■口座名義：(財)日本テニス協会東日本大震災JTA義援金口
■カ ナ：ザイ)ニホンテニスキョウカイヒガシニホンダイシンサイ
ジェイティエーギエンキョクテ
— 海外からの場合 —
Bank : Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Shibuya-Mejidori Branch
Swift code : BOTKJPJT Account No : 3126076
Account Name : JAPAN TENNIS ASSOCIATION

宮城黎子さんの思い出

吉田記念テニス研修センター常務理事

吉田 和子 (旧姓・沢松)



私が黎子さんの試合を初めて観戦したのは中学2年生の時、大阪で行われた全日本選手権大会でH.シュレッツ選手(独)との決勝戦でした。私にとっては初めて見た全日本選手権でした。その1年後、東西対抗戦で黎子さんと対戦することになるとは、思ってもみませんでした。偉大な黎子さんと対戦した感激は、今でも心に残っています。

現役を引退されてからは女子選手のレベル向上、海外への派遣選手が殆んど男子選手であった時代に、女子選手の派遣をテニス協会に働きかける尽力をされました。このような活動のお蔭で私達女子選手が毎年、海外遠征に出られるようになりました。又、全日本選手権に出場の選手達に働きかけ桑名寿枝子さん、井上早苗さん達と日本女子テニス連盟を立ち上げられ、女子選手達のサポートに力を注がれました。

選手として最後の年となった1975年のウィンブルドン大会には、黎子さんが企画されたツアーの方々を始めとする多くの日本人の応援の下で夢にも思っていなかったウィンブルドン女子ダブルスにアン・清村選手と組んで優勝する事ができました。ケント公夫妻より直接、トロフィーを頂く名誉ある経験をする事ができ本当に嬉しく思っています。生涯忘れる事の出来ない大会での優勝を黎子さんに見て頂けた事は、大変、嬉しく今でも良く覚えて居ります。

黎子さんのテニスに対する情熱は、その後もお目に掛る度に、どんどん熱くなって居られました。黎子さんのご遺志であるテニスミュージアム設立の夢も私達、皆で引き継いで行くと同時に、テニス界が今後、益々、発展する事を心より祈っています。



1975年ウィンブルドン大会
ケント公夫妻からトロフィーの授与

「テニスミュージアム」への提案

元AP通信社北東アジア総支配人

我孫子 和夫



昨年度よりテニスミュージアム委員会に関わって参りましたが、現段階でテニスミュージアム設立の理念を少しでも実現するためには、ウェブサイト充実させ、いわゆるバーチャルミュージアムを展開することが最も効果的かつ効率的と思っています。また、このデジタルメディアの世界では様々な形態の情報を発信することができ、双方向のコミュニケーションも可能となります。

一般的にミュージアムと言いますと、多くの歴史的・学術的の遺物や資料を展示し、それらに関連する歴史的な出来事について解説することとなりますが、多くの場合は展示する側が定義づけたメッセージを伝えるという一方のコミュニケーションに終わりがちです。

先人たちの偉業を称え、彼らの業績を紹介するだけでなく、人間的側面にも焦点を当てるようにすれば、もっと多くのテニス愛好家に関心を持って頂けると思います。例えば、歴史的な試合に関しては単にスコアだけでなく、選手の心理的な側面についての記述を加えることができれば更に興味深い内容となるでしょう。

これはスポーツジャーナリズムにも共通していることで、読者の関心を惹きつけるには試合の結果だけでなく、その中の人間ドラマを描き出さなくてはなりません。テニス用具の進化とともにゲームのあり方や戦略も変化してきましたが、人と人が競い合うというスポーツの本質に変わりはありません。人間としての度量や品格が試されるその側面にこそ学ぶべき

ことが多くあるように思います。

もしも可能ならば、選手ご本人あるいはご遺族からの聞き取り、もしくはその歴史に残る試合を報じた新聞・雑誌記事の紹介などを加える方法もあるかと思えます。そうして様々な資料を積み重ねていけば、このウェブサイトがアーカイブ(資料館)の役割を果たすことにもなります。

往年の名選手からの聞き取りは是非とも実現してもらいたと思います。インタビュー記事だけでなく、インタビュー映像も残すことができれば更に時代のニーズに応えることができるでしょうし、それらは単にテニスミュージアムだけでなく、日本テニス界全体の財産にもなることでしょう。

また、グランドスラム大会、デ杯、フェド杯、ジャパンオープンの期間中あるいは直後に往年の名選手のブログなどを掲載し、それに関する意見交換などをウェブ上で展開できれば、更に広く関心を持って頂けるものと思います。例えば、少し前の出来事になりますが、セリーナ・ウィリアムズが全米オープンで線審に悪態をついたことやロジャー・フェデラーが全豪オープンの表彰式で流した涙などについて、往年の名選手の感想を聞いてみたいと思うのは私だけでしょうか。



国枝慎吾選手へのインタビュー

1. 11歳の時にお母さんの勧めでテニスを始められた時の事：

ラケットを持って車いすを漕ぐという動作が難しかったです。最初は週一回のペースで始めましたが、前の週に出来なかったことが出来るようになる、その感覚が楽しかったのを覚えています。

2. 20歳でアテネオリンピックのダブルスに優勝、金メダルを獲得された時の感激：

パートナーが尊敬する斎田選手でしたから、物凄く緊張したのを覚えています。

大会前は経済的な問題からアテネで引退しようと思っていたので、最後の試合で有終の美を飾れて良かったと感動しました。その後、金メダルを獲得したことでテニスを続けることになりましたから、あの瞬間が確実に現在に繋がっていると感じます。

3. 更なる目標：

近い目標としては来年のロンドンパラリンピックで単複金メダルを取ること。そして、もっと多くのお客さんの前でプレーすること。国枝のプレーを見てみたい、と思ってもらえるような選手になりたいです。



全豪オープン2011 撮影：橋山芳治氏

4. 107連勝、4年連続の世界チャンピオン等、厳しい競技テニスにチャレンジし続ける国枝選手のモチベーション：

世界ランク一位ではありますが、まだまだ未熟な点は沢山あり、もっと良い選手になりたいです。沢山の観客の前でプレーする姿を見れば、必ずや「いつかは自分もあの場に」と大勢の車いすの方々に夢を持ってもらえると思っています。そういった環境を私が活躍すれば作って行けると信じています。車いすであってもその競技に魅力があれば、それがプロスポーツとして成り立ち、生活することができるという成功例を残したいと思っています。



錦織選手と力強い握手
(ジャパンオープンレセプションにて)

5. 将来の「JTA テニスミュージアム」に対して、国枝選手が期待するイメージ：

ツアーを回ると言葉の壁に直面することがありますが、ラリーをすればそんな壁はとも簡単に壊すことができ、その瞬間テニスを持つ力、素晴らしさを実感します。テニスを通じて、健常者、障害者、人種…何もかも関係のないようなそんなミュージアムが出来たら嬉しいです。

ジャパンオープン歴史展示 (2010.10.4~10、於・有明コロシアム)

日本のテニスはじめて物語Ⅱ パネル展示



朝吹 常吉

福田雅之助

原田 武一

三木 龍喜

佐藤 倭太郎

杉山愛活動の軌跡

プロフィール

- 生年月日 1988年10月
- 所属 日本代表
- 身長 170cm
- 血液型 B型
- 自己最高世界シングルスランキング 6位 (04年2月)
- 自己最高世界ダブルスランキング 10位 (04年10月)

杉山愛 活動の軌跡

- 1999年全日本ジュニア選手権 女子シングルス優勝
- 2000年全日本ジュニア選手権 女子ダブルス優勝
- 2001年全日本ジュニア選手権 女子シングルス優勝
- 2002年全日本ジュニア選手権 女子ダブルス優勝
- 2003年全日本ジュニア選手権 女子シングルス優勝
- 2004年全日本ジュニア選手権 女子ダブルス優勝
- 2005年全日本ジュニア選手権 女子シングルス優勝
- 2006年全日本ジュニア選手権 女子ダブルス優勝
- 2007年全日本ジュニア選手権 女子シングルス優勝
- 2008年全日本ジュニア選手権 女子ダブルス優勝
- 2009年全日本ジュニア選手権 女子シングルス優勝
- 2010年全日本ジュニア選手権 女子ダブルス優勝

国枝慎吾の挑戦

プロフィール

- 生年月日 1980年4月
- 所属 日本代表
- 身長 175cm
- 血液型 B型
- 自己最高世界シングルスランキング 10位 (04年10月)
- 自己最高世界ダブルスランキング 10位 (04年10月)

国枝慎吾の挑戦

- 2004年全日本ジュニア選手権 男子シングルス優勝
- 2005年全日本ジュニア選手権 男子ダブルス優勝
- 2006年全日本ジュニア選手権 男子シングルス優勝
- 2007年全日本ジュニア選手権 男子ダブルス優勝
- 2008年全日本ジュニア選手権 男子シングルス優勝
- 2009年全日本ジュニア選手権 男子ダブルス優勝
- 2010年全日本ジュニア選手権 男子シングルス優勝
- 2011年全日本ジュニア選手権 男子ダブルス優勝



熊谷一彌選手のオリンピック日本初のメダル (VIPルーム内のロジン・カフェに展示) 協力: 秩父宮記念スポーツ博物館

設立活動のこれまでの経緯

西暦	元号	月日	事項
1988	昭和63	4月	「輝ける日本のテニス史展」有明コロシアム資料室、サントリーJ0期間中
1991	平成3	12月	佐藤三郎総務委員長(丹寿社川真田氏制作) 準備案
2001	平成13	7月	JTAニュース63号13頁、岩淵元総務委員会委員長の事業計画に「テニス博物館」に関する資料収集 記事掲載
2002	平成14	4月	「テニス資料館準備室」発足。内山勝総務本部長(常務理事) 委員長: 宮城黎子、委員: 小田晶子、小林公子、岡田邦子
2003	平成15	3月	JTA80周年祝賀会特別展示(新高輪プリンスホテル)
2003	平成15	10月	ジャパンオープン歴史展示開始。以後、毎年開催となる
2005	平成17	4月	「テニス資料館準備委員会」と改称
2006	平成18	1月	この頃より宮城黎子委員長病氣療養
2006	平成18	11月	有明テニス・マネジメントチームとの初会合
2007	平成19	1月	web版「テニス資料室」活動開始
2007	平成19	4月	「テニスミュージアム委員会」と改称 委員長に小田晶子、副委員長に宮城黎子。武内勝委員就任
2008	平成20	4月	中目黒トランクルーム使用開始 福田達郎委員就任
2008	平成20	6月	宮城黎子さん逝去
2009	平成21	3月	宮城黎子さんご遺志による寄付
2009	平成21	4月	基金活動初年度 総務本部長に浅沼道成常務理事。小林やよい委員就任
2009	平成21	10月	2016年オリンピック東京招致成らず(新有明会場付随のミュージアム計画は白紙に)
2010	平成22	4月	web版テニスミュージアムのリニューアル準備、ニュースレター第1号発行
2010	平成22	5月	プロジェクトチーム初会議
2010	平成22	6月	安藤健児委員就任(有明テニス・マネジメントチーム) 西野篤委員就任(web企画担当) 宮城淳・我孫子和夫・市山哲・猪熊研二・川地孝・栗岡威・後藤光将・吉井栄の諸氏委員正式就任(プロジェクトチーム)
2010	平成22	12月	web版テニスミュージアムのリニューアル公開



歴史展示会場風景



左から、ボール内圧プレス器、ローンテニス以前と初期1920年代以後のボール、ボール毛羽立て器



懐かしいボール缶の数々 資料協力: 横浜山手・テニス発祥記念館(上下とも)

[ご賛同いただいた方々]

多くの個人、グループ、クラブ、企業、諸団体の方々にご賛同いただき、ご寄付を受けました。
重ねて感謝申し上げます。

なお、個人情報保護のため、ウェブサイトでは
[ご賛同いただいた方々] (ご芳名一覧) の公開は控えさせていただきました。
どうぞご了承ください。

平成 22 年度 「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」 会計報告

自：平成 22 年 4 月 1 日 至平成 23 年 3 月 31 日

平成 22 年度は 4,509,905 円 (232 件) の募金をお寄せいただき、そのうち 3,445,524 円 (平成 23 年 2 月末現在募金額) を基金へ積み立てることができました。

その結果、前年度末の累計 13,635,702 円と合わせて、基金の累計は 17,081,226 円となりました。

なお、事業費・事務費 (印刷費、送料・通信費、振替口座徴収料、振込手数料、免税領収書発行手数料、事務用品等の経費) 計 464,215 円を差し引いて 604,102 円を次年度に繰り越しています。
上記の通り、報告申し上げます。



有明常設展示には、現在、福田雅之助氏の「この一球」・記録メモ・万年筆・パイプ他、原田武一氏の貴重なアルバム・スクラップブック、宮城/加茂組の全米ダブルス優勝カップ等が展示されています。

— お知らせ —

WOWOW 放送予定

[番組]

ウィンブルドンのサムライ
～日本最強プレーヤー 佐藤次郎の悲劇～

[放送予定日時]

平成 23 年 6 月 13 日 (月)

22:00～22:45

「青木岩雄氏が英時代のテニス関連映像」(青木花子様ご寄贈フィルム) に収録されていました 1933 年ウィンブルドン大会ダブルス決勝の名場面 (佐藤次郎/布井良助 vs. ボロトラ/ブルニヨンの一部) も、ドキュメンタリー構成で公開される予定です。

【掲示板】

- 中期 5 カ年計画達成のため、引き続きのご支援をお願いします。
- 趣旨にご賛同いただけるご友人、企業、団体をご紹介ください。趣意書などのご案内を送らせていただきます。
- ご寄付、ミュージアムグッズご購入等の振込先：

郵便振替口座番号：00170-0-279241

加入者名：JTA テニスミュージアム委員会

免税領収書 (1 万円以上のご寄付) をご希望の方は、払込取扱票通信欄にご記入ください。原則として 6 月、9 月、12 月、2 月の月末に発行手続きを行い、翌月中旬に発送させていただきます。お急ぎの場合は随時ご請求ください。

- 古いラケット、文献など、テニス史資料の所在情報を求めています。委員会までご連絡ください。

ミュージアムグッズ販売による PR 活動

- 絵はがき (4 枚セット、500 円)、小冊子「写真が語る日本テニス史」(2007 年発行、300 円)



(財) 日本テニス協会 テニスミュージアム委員会

委員長：小田晶子 委員：岡田邦子、小林公子、武内勝、福田達郎、小林やよい、西野篤、安藤健児
プロジェクトチーム：宮城淳、我孫子和夫、市山哲、猪熊研二、川地孝、栗岡威、後藤光将、吉井栄

E メールアドレス：museum@jta-tennis.or.jp